

第14期第7回国立市ごみ問題審議会 議事録

日 時 令和6年（2024年）10月11日（金）午前10時～午前11時30分
場 所 国立市役所3階 第4会議室
出席者 山谷会長、楠田副会長、山崎副会長、神山委員、北村委員、佐藤委員、長嶋委員、山岸委員（委員は50音順）
事務局 清水ごみ減量課長、吉村ごみ減量課長補佐、新清掃係主任
傍聴者 1名

【議事要旨】

1 国立市循環型社会形成推進基本計画の改訂について

（1）第8章食品ロス削減推進計画（案）について事務局から説明した。なお、委員による第14期ごみ問題審議会Q&A表の提出は無かった。

【山谷会長】資料1第8章食品ロス削減推進計画（案）2ページ目、4.食品ロス削減に向けた具体的な施策について、内容をまとめた図が非常に分かりやすいなと思いました。皆様のご意見をお願いします。

【楠田委員】東京都の食品ロス削減推進計画では食品ロス発生量を2030年までに半減させるなどの目標設定があるようですが、第8章の食品ロス削減推進計画では定量的な数値目標は設けないのでしょうか。東京都が定量的な目標を掲げている中で、国立市も同様に半減させることを目標にすることも1つの考え方かなと思います。持続可能な開発目標（SDGs）では、2030年までに1人当たりの食品ロス量を半減するというような目標を立てています。東京都は、食品ロス総量の半減を目指すというように少しコンセプトが違います。例えば、国立市は東京都の一つなので、東京都が総量として半減を目指しているという趣旨に対応していくという計画ならば理解しやすいと思います。

【事務局】令和5年4月に策定した国立市食品ロス削減推進計画では、全体的な啓発というところで意識を高めていくことに重点を置いたため、市民への意識調査において食品ロス削減取組当事者の割合が95%以上を目指すとし、定量的な目標は設定していません。目標を設定しなかった背景には、国立市としては家庭系ごみ量について主に把握していますが、産業廃棄物や事業系ごみについては、どれだけの食品ロスが発生しているのかを把握できていない現状があります。

【楠田委員】理解いたしました。計画内の各施策の中で、定量的な計画を設定するのであれば、大変熱心に取り組んでいるミニ・キエーロを計画期間内に利用者を倍増しますとすると国立市としての特徴が出るなと思いました。計画で目標を立てるときには、個別具体的に国立市としての特徴のあるところで定量的な目標を打ち出すことができた方が良いと思いました。

【山谷会長】ありがとうございます。私もおっしゃるとおりだと思います。

【事務局】持ち帰って検討いたします。

【山崎委員】私の両親も高齢になりまして、あるいは近所にも80歳代、90歳代の方がいて、コミュニケーションをとることがありますが、特に食品ロスに関して負の意味で貢献しているのは、高齢者の割合が高いのではないかと実感しています。

中には比較のお金もあるので、好きなものを買いたい。好きなものを食べることが本当の一番の楽しみということで、よく気持ちは分かりますが、つい買い過ぎてしまう。冷蔵庫の中に何が入っているか簡単に忘れてしまう。つまり、メモリーロスが起きている感じもありますね。あとは、目が見えにくくなっていることもあり消費期限をチェックすることが、なかなか厳しいということで、ストックがあるにもかかわらず、同じものをたくさん買い込んでしまうことが多々見受けられています。そういう意味では、出前講座や飲食店への働きかけだけではなく、恐らく高齢者をサポートする方への教育ということも大事ではないかと思います。ご家族で住んでいる方は、市報などを見て気をつけてくださる家族のサポートもあると思いますし、場合によっては、ヘルパーのような方が、まだ食べられるから、食べたほうがいいよというような声をかけてあげるといいということもあると思います。あるいは、高齢者をサポートしている団体も、今は様々あると思うので、そういうところに対して出前講座や教育をしていくということも今後、役に立つかもしれないと思いました。

【山谷会長】非常に重要なことをご指摘いただいたと思います。福祉部局との連携が非常に重要になると思います。事務局いかがでしょうか。

【事務局】資料1の第8章食品ロス削減推進計画（案）4.（3）食品ロス削減の担い手を広げるための取組みの中で、①幅広い対象に向けた啓発という項目を設けています。こちらに子育て支援関係部署や高齢者支援関係部署との連携について付け加える形で修正いたします。

【山岸委員】生ごみ処理容器（ミニ・キエーロ）の普及促進に関してですが、個人的に生協の委員会活動をやっていて、その場所で1人の方が、今までミニ・キエーロで何とか生ごみを処理しようと思っていたのですが、なかなか処理することが難しいというお話をされてました。そこで、フードプロセッサーにごみを入れて細かくすることによって、全部処理できるようになったという事例をシェアしました。人によって、どのようにしたらうまく処理できるかというのは違うと思いますが、そういう成功事例をシェアしてもらうことが大切だと思います。ミニ・キエーロや補助金を活用してコンポストを買った後に、各個人がどのように工夫して処理しているかというような事例のシェアが足りないと思うので、そちらにもぜひ力を置いていただきたいと思います。

ミニ・キエーロでもLFCコンポストでも結論としては、ごみが消えれば良いということだと思います。補助金を出して終わりではなく、自分もやってみたいと思えるような成功事例を市民に分かるように周知すると良いと思います。

【事務局】ミニ・キエーロ講習会などでも成功事例を共有できるように改善させていただきます。その際はホームページ等にも載せられるようにさせていただこうと思います。

【山谷会長】私もミニ・キエーロを使ってみた経験から言うと、空気に触れやすくするため細かく切ったものや、加熱調理したものは割と早く分解が進みます。今ぐらいの季節では、食べ残しのご飯でしたら、2週間程度で消えてなくなってしまいます。しかし、みかんの皮などの加熱調理していないものですと分解に時間がかかります。みかんの皮のように分解に時間がかかるものもあるということも含めて、ミニ・キエーロの正しい使い方を講座などで広報するということは大事だと思います。キエーロを開発、考案した松本さんという方が葉山町にいまして、彼は声をかければ来てくれると思います。最近、彼は自宅のお庭に塀などに使うコンクリートブロックで大きいキエーロを造ったそうです。そんな新しい工夫もされています。

【山崎委員】例えば2か月程度放置したときはどうしたら良いか、臭いときは少し消石灰を入れると臭いが消えるなどの小ネタを私も持っています。

【事務局】ミニ・キエーロ講習会の際、モニターとして参加いただける方へアンケートを実施してい

ます。そのアンケートで成功事例の項目を付け加えるようにします。

【山岸委員】夏にコバエが発生したので、生ごみを袋に入れて、冷凍庫で凍らせ、ある程度溜まってからお庭に処理したことがあります。冷凍すると、細胞が分解されて処理速度が早くなることはあります。

【山崎委員】はい、私もやっています。生ごみは冷凍庫に入れています。ある程度集まって、しゃりしゃりぐらいで臭う前に小さくして処理しています。

【山岸委員】せっかく良い事例が集まっているのでもう少し深掘りしたほうが良いと思います。

【山谷会長】コバエというのは、本当によく生ごみに寄ってきますね。例えば、居酒屋で飲んでいても、良い匂いのする料理のところに寄ってきます。自宅でも普段気が付かなくても食事をしているときに匂いに釣られて寄ってきますね。

【神山委員】成功事例だけではなく、お悩み事例も知りたいです。こういうときに虫が発生したとか、臭いがひどいとか、そういう場合にどうすれば対応ができるか。多分、それが嫌でやめてしまう人もたくさんいると思います。続けていただけるような工夫をしたほうがいいかなと思います。

【山岸委員】神山委員はフェイスブックグループでQ&Aのアンサーをされていて、それにお世話になっています。

【神山委員】それで、続けられているというお声もいただいています。

【長嶋委員】本当に小さいことですが、市内のスーパーではコロッケ1個を紙の袋に入れて買うことができましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大以降はプラスチック容器に2個入りとなって、食べないで捨ててしまうことがあると思います。自分は1個だけ食べたいのに、一番小さいものでも、今日は2個入り、3個入りだわということが増えたように感じます。残りは、冷蔵庫に入れたとしても、つい手前のものに目が行くため、しまったことを忘れることがあると思います。コロナウイルスが完全にゼロになっていないから難しいかもしれませんが、自分が食べられる量だけを紙袋に入れて、持ち帰るという形に戻ると良いと思います。小売店では、量り売り、手前取り推奨となっていますが、コンビニでも手前取りしましょうと大きく書いているところが多いので良いことだと思います。量販店や大きなスーパーに対しても市が声をかけるようなことができれば良いと思います。

【山谷会長】国立市エコショップ制度を活用して、手前取りのポップなどを陳列棚に置いてもらうなどできれば良いと思います。しかし、エコショップ認定店に小売店系はあるのですが、飲食店系はあまり入っていないですね。これを機に認定店を拡大していくことも1つの取組みの方向としてあり得るかなと思います。

それから、長嶋委員のご発言であった冷蔵庫管理について、これはすごく重要だと思います。私は23区のほうの審議会にも顔を出していますが、区によっては環境フェスタのようなイベントの中で冷蔵庫管理に役立つグッズを希望者に配布するなどされています。行政としても様々な工夫ができるのではないかと思います。問題は、先ほど山崎委員が指摘された高齢者について、物忘れをするというケースがあります。そこについては、福祉部局と連携を密にさせていただいて、取り組んでいただくということをお願いしたいと思います。

【北村委員】ミニ・キエーロでの処理について、生ごみを細かく刻んで入れてというようなことは、普段お仕事が忙しくて難しいかなと感じることもあると思います。その辺を簡単にできる、何かそういう方法が見つかると、忙しい人たちもできるのかなと感じました。

【山谷会長】冷蔵庫の中は、お店の陳列棚のように、先に食べるべきものを手前に入れておしまいではなく常に管理をしておくことが大事です。それから、冷凍庫の活用も非常に重要です。冷凍庫は、

案外と活用されていないところがあると思いますが、冷凍保存すると食材は結構長くもつということがあります。委員の皆さまから知恵をお伝えいただくなどして行政としても何らかのグッズの開発や取り組みができるように、ぜひご協力をお願いしたいと思います。

【佐藤委員】食品ロス削減は非常に大事だと思います。これを減らせばごみ量は大きく減ると思います。食品ロス削減推進計画は第8章と言わず、第2章や第3章に持ってきてても良いような事案だと思います。食品ロス削減の取り組みをエコショップ認定店の小売店などでは行っているが、飲食店にはまだそこまでではないという状況とのことです。小売店よりも飲食店のほうが食品ロスは多いと思います。私どもは事業系のごみを回収していますが、スーパーでは野菜くずや魚の頭など大量に出ます。それを無くすことができればスーパーのごみは半分くらい減るのではないかといいようなお店もあります。したがって、食品ロスの削減を重点的に取り組むことが大切だと感じています。

【山谷会長】そうですね。小売店側の工夫というのも重要かと思います。例えば、今日は10月11日で、食パンの賞味期限が13日のものと14日のものがあれば、やはり14日のほうを取ることが多いと思います。そうすると13日のものが残ってしまうので、賞味期限が13日のものだけを並べておく、それが売り切れたところで14日のものを置くというような商品管理ができれば良いと思います。ただ、大手のコンビニでサンドイッチを買おうとしたときに、消費期限はこだわらないから買いますよと言ったのですが、期限が切れたものはレジが受け付けられないため買えないことがありました。だから、売りたいくても売れないですと言っていました。逆に考えれば、すぐ食べるようなものだったら、全く賞味期限を見ないで買うことだって、そんなにリスクの大きいことではないということです。

【北村委員】どこかのデパートのドーナツ店では、営業後に大きい袋で何袋も捨てていました。従業員で分ければ良いのではないですかと言うと、ある時期からそれが駄目になったとのことでした。毎日のようにあれだけ食品ロスが出ているなら、作らなければ良いのにと思うぐらいで、とてもショックを受けました。

【山谷会長】フードドライブの賞味期限についても、自治体によっては2か月以降でというように徹底していることがあります。短くても1か月は期間的に余裕があるものでないと受け付けられないというようなことがあるようです。そもそも賞味期限を過ぎても食べられると周知していることもあるので、商品によって判断するような柔軟な対応も必要だと思います。最近では食品業界の製造、卸、小売りという流通の中でも、3分の1ルールについても柔軟にするという取り組みは行われてきているようです。フードドライブにおいても、ぜひ柔軟に運用してもらいたいと思います。

【事務局】1点目が、神山委員のご発言にありましたミニ・キエーロのお悩み事例のPRについては、市のホームページで公開していますが、そこを拡充していきたいと思います。

2点目が、長嶋委員のご発言にありました手前取りについて、今年度予算化してポップの作成検討段階です。出来上がり次第、スーパーマーケットやコンビニなどで設置にご協力いただければ、国立市も推奨していますというような仕組みを検討していきます。

3点目が、食品ロス削減を推奨するような取り組みとして、市では令和6年10月1日から食品ロス削減支援アプリのタベスケを導入しました。これは事業者が賞味期限、消費期限が切れそうなものを安価で出品して、消費者がお得に買うことができるというサービスです。

【山谷会長】ありがとうございました。第8章食品ロス削減推進計画（案）については皆様ご了承いただくということでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【山谷会長】では、このような形で第8章に加えたいと思います。

（2）第9章生活排水処理基本計画（案）について事務局から説明した。なお、委員による第14期ごみ問題審議会Q&A表の提出は無かった。

【山谷会長】普段目にすることがあまりないかもしれませんが、生活排水処理、つまり下水道のことです。下水道法で義務付けられていますが、国立市の下水道接続率は99.9%ということですね。0.1%ですが、まだ接続されていないというケースもあるということですね。皆様のご意見を願います。

【山岸委員】資料2第9章生活排水処理基本計画（案）3ページの5（1）②適正な維持管理の促進について、下水道に油は流してはいけませんという内容が市報に数行だけありました。これを読んだことで、下水道に油を流すことをやめる人は少ないと思いますし、そもそも読む人も少ないと思います。写真をつけて特集するなど、もう少し目につくようなものにできたら良いなと思いました。最近、私は紙ごみを捨てるときに、市報をのりで貼って紙袋を作っています。そのときに、必要な情報がないかと改めて見るようになりました。市報を使って紙袋をみんなで作りながら話をするなどの機会があると良いなと併せて思いました。

【事務局】市報は下水道課が出した記事だと思います。東京都下水道局だったと思いますが、油の使用量を減らしたカロリーオフのレシピ本を出したというようなことをテレビで見たことがあります。なぜ下水道局がレシピ本を出したかという、油を流すと下水道管が詰まる原因になるからだそうです。そのような形で、国立市も関係部局と意見交換して、啓発活動をしていきたいと思います。

【山谷会長】し尿のくみ取り車を街中であまり見かけることはなくなりましたが、業者さんのほうも商売にならないから、くみ取り車の台数を減らしたりされているようです。その処理料金は、値上げしたとしてもコストに見合うものではないと思います。社会的な配慮が必要ということもあり、コストより大分安いということがあります。

課題としては、普段くみ取り車の台数は多くある必要はないですが、災害が起きて下水道が機能しなくなった場合には必要になります。私が2011年の震災現場を訪れた際に、仙台市で聞きましたが、新潟市などがくみ取り車を回してくれたそうです。これが一番助かったと言っていました。災害時に県を通じて各市町村から様々な支援をしていただけたようですが、他の自治体もくみ取り車は少なく、くみ取り車を回してくれる自治体が限られていたという話を聞きました。あれから年数がたって、さらにくみ取り車は減少していると思います。多摩地域でも直下型の地震がないとも限らないため、有事の際にくみ取り車をどのように確保していくのか、これはとても大きな課題になると思います。

したがって、し尿の汲み取り量などは減少していても、この部門を完全に無くしても良いということではないです。災害対策用に、ある程度備えておく必要はあると思います。

【事務局】今年1月に発生した石川県の地震でも応援依頼があまりました。国立市の委託業者が1週間、し尿処理の応援に行ってきたという報告を受けています。現地は下水道管などが寸断されていて大変だったという報告がありました。

【長嶋委員】自分が子供の頃は、遠くから臭いがしてきたらくみ取り業者が来たなと分かりました。

自分たちが住んでいるところに太いホースを持ってきて、くみ取ります。そういったことを今の人は知らないと思います。何か起こったときに文句を言う人はいますが、臭わなくて当然、何でも当然で、そういう人たちにありがたみを感じている人も少ないだろうと思います。皆さんが当たり前で生活できていることは、そういう縁の下で力持ちみたいな人たちが、不便にならないようにやってくれているから成り立っていますよというように市報などで周知しても良いと思います。

【神山委員】食品ロスにも関連すると思いますが、コンポストによっては油も入れられるものがあります。そういうこともつながるかもしれません。

【山谷会長】油を入れると保温効果のようなことがありますね。隠れたメリットですね。

【神山委員】油はすごく良いので、時々、逆に入れてあげたほうが良いくらいです。

【山崎委員】残念ながら、若い人は本当に市報を見ないです。私の娘が大学生ですが、私が海外に行っている間、彼女が市報など届いたら、時間がないから読まずに紙ごみとしていたと言っていました。もう市報の時代もだんだんと終わってきているのかなと感じています。学生に聞いてみても、市報を入れてくるんだよね、邪魔、ごみが増えて困ると。そんな言い方をする学生もいます。

ごみの問題は非常に身近で大事なことで、若い世代にいかに関心を持っていくかが大切だと思います。市報とは別の発信方法へのシフトということも、検討していく必要があると思います。

【北村委員】小学生など、子どもが小さい頃からそういう教育をしないと、絶対身につかないと思います。私たちが子どものときは、そういう教育も道徳などの授業であったような気がします。大学生などの大人に言ってもなかなか響かないけれど、子どものうちから教育をしていく必要があるなと思います。

【山谷会長】廃食油についてですが、国立市役所を含めて3か所で集めていますが、365日で割ってみれば、1日1リットルしか集まってないというようなことが、前の事業評価で出てきました。たしか360リットル程度の回収量でした。少し前は年間1,000リットル以上集まっていました。ところが、西東京市のエコプラザで物すごいものを私は見ました。大きなタンクにいっぱい廃食油が集まっていました。車でメーカーへ運ぶにしても、クレーン車でないと持ち上げられないような量でした。なぜたくさん集まるかを聞いたら、廃食油を戸別収集しているそうです。回収量は30トン以上とのことでした。要するに、廃食油は排出しやすいかどうか、回収量増加の決め手になるのかなと思います。現在では、インクの原料だけでなく航空燃料にも用いるということまで、実証的に研究がされているようです。

練馬区では、ごみのストックヤードを新たに造ったときに、軽油に近いものができる精製装置を導入したそうです。この軽油をごみ収集車に利用しているそうです。そこまではまだ難しいかもしれませんが、廃食油を排出しやすい形で収集箇所を増やしていくことが、これからの課題ではないかと思います。回収拠点について、ある自治体ではイトーヨーカ堂と連携して、廃食油の回収を行っているところもあります。お店も最近は環境意識が随分高くなっていることもあり、会社が水筒のような蓋つきの回収容器を用意して、住民が店頭のカウンターの脇にそれを置きます。そして、また新しい容器を借りて使うという形で回収しています。

【山崎委員】イトーヨーカ堂は国立市にはないですね。市役所で集めるにしても持っていくことが困りますよね。市で回収容器を配布するのも良いと思います。

【北村委員】使用後の油を何に入れて運ぶかが面倒くさいので、専用の容器が必要ですね。

【山谷会長】そうですね。そこまできちんとやれば、協力していただける方は多いと思います。

【山岸委員】イトーヨーカ堂が出している情報では、東京都で25店舗、全国では計30店舗と書いて

てあります。近くではイトーヨーカ堂の多摩センター店があります。

【北村委員】スーパーは皆さん行くから一番出しやすいですね。

(3) 第10章計画の進行管理(案)について事務局から説明した。なお、委員による第14期ごみ問題審議会Q&A表の提出は無かった。

【山谷会長】計画の進行管理についてはPDCAサイクルでの運用ということで、プラン・ドゥー・チェック・アクション、これを回していこうということです。その一環のチェックのところを、ごみ問題審議会でも毎年審議してきました。そして、それを検証に生かしていくという形で、新たなプランを策定する。今現在はこの段階に入っているということです。皆様のご意見をお願いします。

【楠田委員】資料3第10章計画の進行管理(案)のPDCAサイクルは、第2次国立市循環型社会形成推進基本計画とほとんど同じ内容ということですね。最初の議論でもありましたが、例えば2030年にSDGsのターゲットや東京都の食品ロスに関する計画が節目を迎えます。2030年は国立市の基本計画期間の中間点でもあり、明らかに大きな節目となるので、見直しを徹底的にするとか世の中の動向に柔軟に対応するというようなことを2番目の項目として入れても良いのかなと思いました。

【山谷会長】SDGsに関しては2030年までということで、現在運用されています。その後は必要な修正等を加えた別バージョンが出てくる可能性があると思います。第3次基本計画の策定の際は、この辺についても触れておくということで事務局はいかがでしょうか。

【事務局】ありがとうございます。記載させていただきたいと思います。

【山岸委員】個人的にビジネス講座などに出ていると、日本はプランがとても長くて、ドゥーをするまでに終わってしまうということを聞きます。生活が多様化してきている現在では、小さなドゥーを、トライ・アンド・エラーを繰り返して、良いものだけを絞り込むというスタイルが良いと思います。

【山谷会長】委員のご意見も取り入れつつ、行政のほうで修正を対応していただいたうえで、資料3の案の通り、基本的には前計画である第2次基本計画と同じ進行管理の方針とする形でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【山谷会長】では、そのようにお願いします。

2 その他

(1) 次回の日程について

第8回は11月22日(金曜日)午前10時から行うこととした。

(2) その他

おいくら、タベスケの利用状況について事務局より説明した。

— 了 —